

恵み深い父なる神よ、み子は、すべての人のまことの命のパンとなるために、天からこの世に降られました。どうかこの命のパンによってわたしたちを養い、常に主がわたしたちのうちに生き、わたしたちが主のうちに生きられるようにしてください。父と聖霊とともに一体であって世々に生き支配しておられる主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン



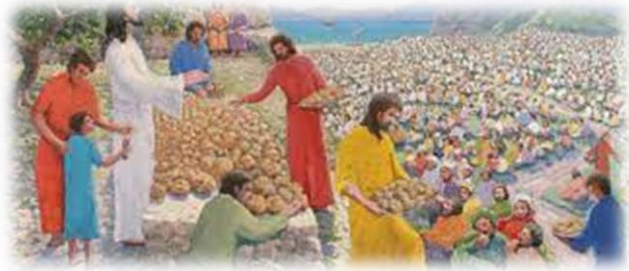
日本聖公会 東京教区
聖パウロ教会 じちようがっこう
〒153-0053 目黒区五本木 2-20-1
でんわ: 03-3710-6031

号外 189
発行日
2024年
3月10日

大齋節も半分が過ぎました。寒い日が続いていますが、ふと見ると球根の葉が伸びていたり、木の芽が出てきていたり…確かに春が近づいていることを感じます。全てを与えてくださる神様に感謝。

今週の聖書 ヨハネによる福音書 6:4-15

4 ユダヤ人の祭りである過越祭が近づいていた。5 イエスは目を上げ、大勢の群衆が自分の方へ来るのを見て、フィリポに言われた。「どこでパンを買って来て、この人たちに食べさせようか。」6 こう言ったのはフィリポを試みるためであって、ご自分では何をしようとしているか知っておられたのである。7 フィリポは、「めいめいが少しずつ食べたとしても、二百デナリオンのパンでは足りないでしょう」と答えた。8 弟子の一人で、シモン・ペトロの兄弟アンデレが、イエスに言った。9 「ここに大麦のパン五つと魚二匹とを



持っている少年がいます。けれども、こんなに大勢の人では、それが何になりましょう。」10 イエスは、「人々を座らせなさい」と言われた。その場所には草が多かった。それで、人々は座った。その数はおよそ五千人であった。11 そこで、イエスはパンを取り、感謝の祈りを唱えてから、座っている人々に分け与えられた。また、魚も同じようにして、欲しいだけ分け与えられた。12 人々が十分食べたとき、イエスは弟子たちに、「少しも無駄にならないように、人々が大麦のパン五つパン切れを集めなさい」と言われた。13 集めると、人々が大麦のパン五つを食べ、なお余ったパン切れで、十二の籠がいっぱいになった。14 人々はイエスのなさったしるしを見て、「まさにこの人こそ、世に来るべき預言者である」と言った。15 イエスは、人々が来て、自分を王にするために連れて行くこととして知っているのを知り、独りでまた山に退かれた。

聖書からのメッセージ「私たちのいのち」 主教 高橋 宏幸

旧約聖書の中に、エジプトを脱出した後、イスラエルの人たちは荒野を四十年間さまよい、いつも空腹に見舞われ、飢えと隣り合わせでしたが、神様はその人たちの苦しみをみながさなかつたという話があります。つまり、人びとが飢え、渇き、不平不満を言う中で、神様は「文句を言うな」ではなしに、生きるための備えをしてくださった上で、初めて、「人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる」と告げられました。

そして、人びとは大切なことに気付かされました。「生きる糧であるパンを備えてくださる神様こそが、自分に似せて造られた私たちを生かす言葉も与えてくださるのだ」と。イエス様も生きる上での物の大切さを心得ていらっしゃるが、大切なことは神様在っての私たちなのだということを伝えられました。

神様が授けてくださったいのちを、「私たちのいのち」として養い続けて下さる神様の心を大切にしたいものです。